

## 2022年業績

### 【論文発表】

#### B 邦文

##### (B-a) 原著論文

1. 林田颯志、森善洋、佐道紳一、岩村直矢、一瀬将広、對馬秀樹、樋口則英、高度腎機能障害を有する急性前骨髄球性白血病 (acute promyelocytic leukemia: APL) 患者に対し血液透析導入と APL 治療を行い寛解が得られた 1 例、医療薬学, 48 (3), 136-142, 2022.

##### (B-c) 著書

1. 森善洋、樋口則英、【皮膚疾患】乾癬、薬剤師のための薬物療法問題集、p218-226、家入一郎監修、じほう、東京、2022.

### 【学会発表】

#### B 国内発表

##### (B-b) 一般演題

1. 平野有紀、吉野走、岩村直矢、佐道紳一、澤井豊光、小野大地、樋口則英、白内障手術クリニカルパス変更による抗菌薬適正使用の評価、第 32 回日本医療薬学会年会 (高崎)、2022 年 9 月 23 日～25 日
2. 林田颯志、森 善洋、佐道紳一、岩村直矢、山島美緒、樋口則英、アテゾリズマブによる重症な免疫学的有害事象 (irAE) が発生した 1 例、第 32 回日本医療薬学会年会 (高崎)、2022 年 9 月 23 日～25 日
3. 草野泰輝、森善洋、吉野走、林田颯志、山根理恵子、山口卓朗、岩村直矢、佐道紳一、南恵樹、樋口則英、トラスツズマブ先行品からバイオシミラーへの切り替えにおける infusion reaction 発現率の調査、第 32 回日本医療薬学会年会 (高崎)、2022 年 9 月 23 日～25 日
4. 山根理恵子、佐道紳一、岩村直矢、森善洋、樋口則英、一瀬浩郎、高用量アセトアミノフェン併用によりワルファリンの作用増強をきたした 1 例、第 15 回日本緩和医療薬学会年会、2022 年 5 月 14 日～15 日 (Web)

## 2021年業績

### 【論文発表】

#### B 邦文

##### (B-a) 原著論文

1. 林田颯志、山本早絵、佐道紳一、吉野走、川原隆、六倉和生、樋口則英、認知症サポートチームにおける薬剤師の薬学的介入に関する実態調査、日本病院薬剤師会雑誌、57(10)、1086-1091、2021.
2. 大塚早紀、橋詰淳哉、成末まさみ、中世古まなみ、福田里香、矢野未来、杉本悠花、樋口則英、森本仁、上島泰二、江藤りか、中村忠博、長崎地区でのCKD啓発活動による病院・薬局薬剤師の意識変化、日本病院薬剤師会雑誌、57(9)、967-973、2021.
3. 松永典子、樋口則英、里加代子、渡辺一章、井上高彦、増田淳士、吉村彰剛、廣瀬知子、兒玉幸修、佐々木均、経管投与患者・薬学的管理チェックシートおよび内服薬の経管投与時のマニュアルの病院薬剤師に対する認知度および有用性の評価、日本病院薬剤師会雑誌、57(5)、535-542、2021.
4. 吉野走、山根理恵子、佐道紳一、本多美佳子、林田颯志、岩村直矢、本吉康英、市川辰樹、樋口則英、ピボキシル基含有抗菌薬中止により高アンモニア血症が改善した成人肝硬変症例、日本病院薬剤師会雑誌、Vol.75、79-83、2021.

### 【学会発表】

#### B 国内発表

##### (B-b) 一般演題

1. 佐道紳一、吉野走、岩村直矢、澤井豊光、樋口則英、門田淳一、ESBL産生大腸菌が分離された尿路感染症患者および尿由来の菌血症患者におけるCMZ投与群とMEPM投与群の比較、第68回日本化学療法学会東日本支部総会、2021年10月27日～10月29日（Web開催）

## 2020年業績

### 【論文発表】

#### B 邦文

##### (B-a) 原著論文

1. 中川博雄、佐道紳一、岡田昌之、今村政信、福重友理、樋口則英、成末まさみ、佐々木均、室高広、抗がん薬無菌調製における薬品搬入時の消毒法に関する検討、日本病院薬剤師会雑誌、56(1)、53-55、2020.

#### 【学会発表】

##### B 国内発表

###### (B-a) 招待講演等

1. 樋口則英、薬剤師の立場から、治験で困ったことと対応、第20回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2020 in 長崎（長崎）、2020年11月3日～16日（Web開催）

###### (B-b) 一般演題

1. 林田颯志、佐道紳一、岩村直矢、對馬秀樹、一瀬将広、樋口則英、血液透析患者において急性前骨髄球性白血病の寛解導入療法と地固め療法の投与設計を行い奏功した1例、第30回日本医療薬学会年会（名古屋）、2020年10月24日～11月1日（Web開催）
2. 岩村直矢、佐道紳一、山口文子、山口楓、山下裕、樋口則英、慢性腎臓病教育入院における医薬品教育資料作成と評価、第1回長崎県薬剤師学会大会（長崎）、2020年2月16日
3. 前山美和、三浦伊代、田嶋真理子、濱口利恵子、田島純子、稲岡奈津子、里加代子、松永典子、久松徳子、相良郁子、鎌田昭江、高島英昭、泉野浩生、山野修平、樋口則英、川崎英二、精神科病棟におけるNST介入の効果と臨床的意義、第23回日本病態栄養学会年次学術集会（京都）、2020年1月24日～26日

## 2019年業績

#### 【論文発表】

##### B 邦文

###### (B-a) 原著論文

1. 橋詰淳哉、松丸由美、金澤絵莉、樋口則英、黄智剛、兒玉幸修、神田紘介、山崎拓也、本田琢也、日高重和、中村忠博、室高広、北原隆志、佐々木均、ネダプラチン・5-FU併用療法における好中球減少・血小板減少の危険因子解析、医療薬学、45(11)、616-625、2019.
2. 橋詰淳哉、黄智剛、岩永真理恵、樋口則英、神田紘介、兒玉幸修、中村忠博、北原隆志、佐々木均、室高広、イリノテカン・5-FU併用療法におけるアプレピタント併用下での

パロノセトロン<sup>®</sup>の有用性評価、日本緩和医療薬学雑誌、12 (3)、67-74、2019.

3. 中川博雄、伊東潤一、岡田昌之、岩村直矢、今村政信、北原隆志、佐々木均、室高広、病棟配置された軟膏剤やクリーム剤の衛生管理に関する複数施設での実態調査、日本環境感染学会誌、34 (3)、176-181、2019.

#### (B-d) 紀要

1. 樋口則英、ファルマ：県立広島病院 見学報告、全国自治体病院協議会雑誌、58 (11) 1601-1603, 2019.
2. 樋口則英、ファルマ：薬剤師の職能を通じて患者さんと地域住民の健康な生活を確保する、全国自治体病院協議会雑誌、58 (7) 1038-1041, 2019.
3. 樋口則英、病院紹介：薬剤師の職能を通じて患者と地域住民の健康な生活を確保する、日本病院薬剤師会雑誌、55 (4) 452-453, 2019.

#### 【学会発表】

##### B 国内発表

#### (B-b) 一般演題

1. 山本早絵、林田颯志、佐道紳一、吉野走、川原隆、六倉和生、樋口則英、認知症サポートチームにおける薬剤師の必要性に関する評価、第29回日本医療薬学会年会(福岡)、2019年11月2日～4日

## 2018年業績

#### 【論文発表】

##### B 邦文

#### (B-a) 原著論文

4. 佐道紳一、吉岡大樹、本多美佳子、山根理恵子、吉岡寿麻子、澤井豊光、松尾信子、須山尚史、樋口則英、前立腺がんに対するドセタキセル療法後の顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)投与中に間質性肺炎を併発した1例、日本病院薬剤師会雑誌、54(8)、979-982、2018.
5. 橋詰淳哉、樋口則英、岸川礼子、赤松隼人、室高広、中村忠博、北原隆志、松谷久、東島彰人、佐々木均、地域連携に向けた病院薬剤師の関わりに関するアンケート調査、九州薬学会雑誌、72、81-86、2018.

#### 【学会発表】

##### B 国内発表

### (B-b) 一般演題

1. 橋詰淳哉、松丸由美、金澤絵莉、樋口則英、黄智剛、神田紘介、山崎拓也、本田琢也、日高重和、佐々木均、室高広、ネダプラチン・5-FU 併用療法における発熱性好中球減少症の危険因子解析、第 28 回日本医療薬学会年会（兵庫）、2018 年 11 月。
2. 吉野走、山根理恵子、佐道紳一、本吉康英、市川辰樹、樋口則英、ピボキシル基含有抗菌薬中止により高アンモニア血症が改善した成人肝硬変症例、第 28 回日本医療薬学会年会（兵庫）、2018 年 11 月。
3. 大山要、齋藤遥、日高匡章、中川博雄、今村政信、室高広、樋口則英、江口晋、中嶋幹郎、手術部位感染予防での抗菌薬の適正使用を目指した血中薬物濃度と皮膚分布量の相関解析、第 29 回クロマトグラフィー科学会議（愛知）、2018 年 11 月。
4. 廣兼誠、佐道紳一、吉野走、山根理恵子、本多美佳子、林田颯志、小川正信、中村達也、浦松正、樋口則英、慢性腎臓病教育入院における医薬品教育資料作成と評価、第 79 回九州山口薬学大学（大分）、2018 年 11 月。

## 2017年業績

### 【論文発表】

#### A欧文

##### (A-a) 原著論文

1. Ishikawa T, Otaki H, Mizuta S, Kuriyama M, Onomura O, Higuchi N, Nakashima M, Nakashima M, Ohyama K, Computational study of the competitive binding of valproic acid glucuronide and carbapenem antibiotics to acylpeptide hydrolase, Drug Metabolism and Pharmacokinetics, Volume 32(4), 201-207, 2017, (DOI: 10.1016/j.dmpk.2017.04.002).

#### B邦文

##### (B-a) 原著論文

1. 寺田早絵、吉岡大樹、木下真理子、林田颯志、佐道紳一、古殿真之介、樋口則英、急性心筋梗塞後早期に発症した薬剤性横紋筋融解症の1例、日本病院薬剤師会雑誌、53(11), 1377-1381, 2017.
2. 馬場安里、樋口則英、橋詰淳哉、黒崎友亮、嶺豊春、北原隆志、中村忠博、佐々木均、室高広、病棟専任薬剤師の入院患者のポリファーマシーに対する薬剤中止提案の実態調査、日本病院薬剤師会雑誌、53(9), 1125-1129, 2017.
3. 藤田有紀子、佐道紳一、増山純二、黒坂升一、兼松隆之、NOAC適正使用における理解度調査と課題、日本臨床救急医学会、20(4), 581-587, 2017.

4. 吉岡大樹、森善洋、寺田早絵、吉野走、小坂幹子、竹本智子、森崎慎太郎、小寺宏平、樋口則英、ラニチジン投与を契機にアカシジアを発症した婦人科癌の1例、日本病院薬剤師会雑誌、53(3),295-298, 2017.
5. 藤田文彦、三浦伊代、樋口則英、山野修平、世羅至子、山口大輔、久松徳子、稲岡奈津子、松永典子、田嶋真理子、田島純子、長崎大学病院及び長崎西彼地区のNST活動状況について～第7回長崎西彼NST研究会のアンケート結果～、長崎県医学会雑誌、92(1)、12-16、2017.

#### 【学会発表】

##### B国内発表

###### (B-b) 一般演題

1. 本多美佳子、吉岡大樹、佐道紳一、吉野走、岡正拓、永延佳子、鎌田昭江、樋口則英、高カリウム血症に対するグルコース・インスリン(GI)療法の調査解析、第27回日本医療薬学会年会(千葉)、2017年11月.
2. 森善洋、吉岡大樹、佐道紳一、竹本智子、小坂幹子、峯孝志、樋口則英、薬剤部からの提案タイミングがHBV関連検査項目測定率へ及ぼす影響、第27回日本医療薬学会年会(千葉)、2017年11月.
3. 松永典子、樋口則英、渡辺一章、井上高彦、増田淳士、吉村彰剛、廣瀬知子、北原隆志、佐々木均、長崎県における経管投与患者に対する薬学的管理チェックシートの導入、第27回日本医療薬学会年会(千葉)、2017年11月
4. 高橋洋一、戸田聡美、三藤大地、樋口則英、市川辰樹、橋口順康、兼松隆之、研究関連専門部門である研究開発センター設立による効果、第56回全国自治体病院学会(千葉)、2017年10月19日～20日
5. 山下真由美、植木菜美、永延佳子、山下理恵、古川千香、本田真美、鎌田昭江、吉岡大樹、兼松隆之、糖尿病教育入院時の薬剤師によるアンケート調査、第55回日本糖尿病学会九州地方会(宮崎)、2017年10月.
6. 永延佳子、有森春香、山下真由美、山下理恵、本田真実、鎌田昭江、高橋洋一、兼松隆之、DPP-4阻害薬の連日製剤から週1製剤への変更による効果の検討、第55回日本糖尿病学会九州地方会(宮崎)、2017年10月.
7. 橋詰淳哉、樋口則英、岸川礼子、赤松隼人、室高広、中村忠博、北原隆志、松谷久、東島彰人、佐々木均、地域連携に向けた病院薬剤師の関わりに関するアンケート調査(宿題委託報告)、第78回九州山口薬学大会(宮崎)、2017年9月
8. 小川正信、吉野走、藤田有紀子、森善洋、須田久美子、中村達也、樋口則英、病棟薬剤師による各病棟での研修会(麻薬管理及び抗がん剤取扱い)の実施と評価、第78回九州山口薬学大会(宮崎)、2017年9月.
9. 仮屋洋佑、黒崎友亮、樋口則英、中村忠博、北原隆志、佐々木均、室高広、長崎大学病

院における退院時服薬指導の実施状況に関する調査、第78回九州山口薬学大会（宮崎）、2017年9月

10. 山下真由美、鎌田昭江、永延佳子、植木菜美、本田真美、古川千香、吉岡大樹、兼松隆之、糖尿病教育入院患者における薬剤師の説明内容の理解度に関するアンケート調査、第6回日本くすりと糖尿病学会学術集会（東京）、2017年9月。
11. 松丸由美、橋詰淳哉、金澤絵莉、樋口則英、黄智剛、神田紘介、山崎拓也、本田琢也、日高重和、佐々木均、室高広、ネダプラチン・5-FU併用療法における好中球減少の危険因子解析、医療薬学フォーラム2017（鹿児島）、2017年7月1日～2日
12. 山下真由美、有森春香、鎌田昭江、渡部太郎、山下理恵、近藤直幸、高瀬智子、本田真美、古川智香、吉岡大樹、樋口則英、兼松隆之、DPP-4阻害薬の連日製剤から週1回製剤への変更時の意識調査、第60回日本糖尿病学会学術集会（愛知）、2017年5月。
13. 鎌田昭江、有森春香、渡部太郎、村井春霞、早崎夕姫、天本崇子、山下理恵、小田めぐみ、山下真由美、荒木佐矢香、猪野恵美、兼松隆之、1週間の当院糖尿病教育入院の効果の検討、第60回日本糖尿病学会学術集会（愛知）、2017年5月。
14. 山下理恵、鎌田昭江、有森春香、渡部太郎、馬場かおり、小田めぐみ、山下真由美、荒木佐矢香、猪野恵美、兼松隆之、チームビルディングによる糖尿病チームの活性化、第60回日本糖尿病学会学術集会（愛知）、2017年5月。
15. 水田賢志、石川岳志、大滝大樹、栗山正巳、尾野村治、樋口則英、中嶋弥穂子、中嶋幹郎、大山要、バルプロ酸とカルバペネム系抗菌薬の相互作用機序の計算化学的考察、日本薬学会第137年会（仙台）、2017年3月
16. 橋詰淳哉、松丸由美、金澤絵莉、樋口則英、黄智剛、兒玉幸修、神田紘介、山崎拓也、本田琢也、日高重和、中村忠博、北原隆志、佐々木均、室高広、ネダプラチン・5-FU併用療法における血小板減少の危険因子解析、日本薬学会第137年会（仙台）、2017年3月
17. 中村達也、吉岡大樹、寺田早絵、土居菜美子、小川正信、樋口則英、薬剤部疑義照会記録の電子化と医薬品安全使用のための業務改善、日本医療マネジメント学会第17回長崎支部学術学会（長崎）、2017年2月
18. 森善洋、吉岡大樹、佐道紳一、竹本智子、小坂幹子、峯孝志、樋口則英、当院におけるがん化学療法患者のHBV再活性化に対する薬剤部関与の効果と問題点の把握、日本医療マネジメント学会第17回長崎支部学術学会（長崎）、2017年2月
19. 小川正信、吉岡大樹、藤田有紀子、須田久美子、中村達也、樋口則英、病棟薬剤師による各病棟での麻薬管理研修会実施と評価、日本医療マネジメント学会第17回長崎支部学術学会（長崎）、2017年2月
20. 吉岡大樹、森善洋、寺田早絵、吉野走、小坂幹子、竹本智子、森崎慎太郎、小寺宏平、樋口則英、ラニチジン投与を契機にアカシジアを発症した婦人科がんの1例の解析と対応、日本医療マネジメント学会第17回長崎支部学術学会（長崎）、2017年2月

## 2016年業績

### 【論文発表】

#### A欧文

##### (A-a) 原著論文

1. Araki C, Yoshimura M, Fukumitsu Y, Ma S, Ishida T, Urabe S, Matsushima K, Honda T, Uehara R, Fukuda Y, Takeshima F, Higuchi N, Isomoto H, Nakao K and Tsukamoto K\*, The evidence of genetic polymorphisms of genes involved in the P2RX7 signaling pathway as predictive biomarkers for response and loss of response to infliximab against Crohn's disease, *Integr Mol Med.*, 3(6), 1-15, 2016.
2. Mawatari T, Yoshida E, Higuchi N, Sato K, Inamine T, Kondo S, Fukushima K, Suyama N, Mukae H, Kohno S, Tsukamoto K, A combination polymorphism of the glutathione synthesis genes can be a predictive biomarker for anti-tuberculosis drug-induced hepatotoxicity in Japanese patients with pulmonary tuberculosis, *Lung Dis Treat*, 2016, doi: 10.4172/2472-1018.1000105, 2016.
3. Hashizume J, Higuchi N\*, Sato K, Kodama Y, Matsunaga N, Sakamoto T, Yamaguchi K, Nakamura, Kitahara T, Sasaki H, Evaluation of antiemetic therapy for hepatic transcatheter arterial infusion chemotherapy with cisplatin, *Biol Pharm Bull.*, 39(4), 611-614, 2016.

#### B邦文

##### (B-a) 原著論文

1. 橋詰淳哉、出口雅浩、福田浩子、川本裕美、龍恵美、川崎浩二、中村忠博、北原隆志、佐々木均、樋口則英\*、6Lを超える輸液量で在宅移行できた血管作動性腸管ポリペプチド産生腫瘍の一例、日本緩和医療薬学雑誌、9(2)、61-65, 2016.
2. 松永典子、樋口則英、里加代子、稲岡奈津子、前山美和、田島純子、泉野浩生、川崎英二、食事摂取量が十分な褥瘡患者に対してアバンド<sup>TM</sup>とブイ・クレス<sup>TM</sup>の併用が早期治癒促進に有用であった一例、日本病態栄養学会誌、19(2)、307-311, 2016.
3. 赤松隼人、樋口則英\*、立石洋平、辻野彰、堀江信貴、出雲剛、林健太郎、佐々木均、北原隆志、抗血栓薬内服が急性期脳出血患者の退院時の死亡率に及ぼす影響、医療薬学、42(3)、168-173, 2016.
4. 神田紘介、室高広、大脇裕一、天本翔子、一瀬菜摘、樋口則英、中村忠博、北原隆志、佐々木均、薬学実務実習における体験型質疑応答実習の導入と評価—情報を聞き出す技能の向上—、日本病院薬剤師会雑誌、52(3)、292-296, 2016.



(B-d) 紀要

1. 樋口則英、今求められているNSTと薬剤師の役割 (83) 静脈栄養の適正化を實踐で  
きる薬剤師を育成することがNST薬剤師の役割である、週刊薬事新報、2956、9-12、2016.
2. 樋口則英、第8回<事例紹介>漢方薬効かせ方の工夫、漢方医薬学雑誌、23(4)、132-134、  
2016.

【学会発表】

B国内発表

(B-b) 一般演題

1. 吉田昌子、石嶋真樹子、吉岡大樹、登恵、上村智恵子、川口聡一郎、中村亮、樋口則英、  
南和徳、放射線咽頭食道炎に対する桔梗湯の有効性について、第29回日本放射線腫瘍学  
会学術大会（京都）、2016年11月.
2. 中村真寿美、吉岡大樹、近藤直幸、白石怜子、江川菜々、岡村志穂、鬼塚伸也、クリニ  
カルパス承認における多職種審査の有用性の検討、第17回日本クリニカルパス学会学術  
集会（金沢）、2016年11月.
3. 室高広、馬場安里、橋詰淳哉、黒崎友亮、嶺豊春、樋口則英、佐々木均、病棟専任薬剤  
師の入院患者に対するポリファーマシー削減の実態調査、第49回日本薬剤師会学術大会  
（名古屋）、2016年10月.
4. 鎌田昭江、谷口育昌、有森春香、渡部太郎、竹中奈月、早崎夕姫、村井春霞、山下理恵、  
小田めぐみ、山下真由美、荒木佐矢香、猪野恵美、兼松隆之、1週間の当院糖尿病教育入  
院の効果の検討、第54回日本糖尿病学会九州地方会（鹿児島）、2016年10月.
5. 村井春霞、鎌田昭江、本田真美、谷口育昌、早崎夕姫、竹中奈月、山下理恵、小田めぐ  
み、植木菜美、荒木佐矢香、猪野恵美、1週間の当院糖尿病教育入院から半年の食行動の  
検討、第54回日本糖尿病学会九州地方会（鹿児島）、2016年10月.
6. 山下理恵、鎌田昭江、馬場かおり、小田めぐみ、山下真由美、荒木佐矢香、猪野恵美、  
兼松隆之、糖尿病チームへのチームビルディングの導入、第54回日本糖尿病学会九州地  
方会（鹿児島）、2016年10月.
7. 神田紘介、室高広、樋口則英、橋詰淳哉、黄智剛、兒玉幸修、金内優典、三浦清徳、中  
村忠博、佐々木均、婦人科がんWeeklyTC療法における知覚神経障害発症のリスク因子解  
析、第26回日本医療薬学会年会（京都）、2015年9月.
8. 黄智剛、神田紘介、樋口則英、橋詰淳哉、兒玉幸修、金内優典、三浦清徳、室高広、佐々  
木均、婦人科癌に対するパクリタキセル・カルボプラチン療法におけるアプレピタント  
併用の有効性と安全性の評価、第26回日本医療薬学会年会（京都）、2015年9月.

9. 石嶋真樹子、吉岡大樹、吉田昌子、寺田早絵、森善洋、南和徳、樋口則英、放射線食道炎に対する桔梗湯の有用性の検討、第10回日本緩和医療薬学会年会（浜松）、2016年6月.
10. 藤田有紀子、佐道紳一、増山純二、黒坂升一、六倉和生、陶山一彦、NOAC適正使用の現状分析と課題、第41回日本脳卒中学会総会（札幌）、2016年4月.
11. 相良郁子、三浦伊代、田嶋真理子、濱口利恵子、松永典子、樋口則英、久松徳子、三串伸哉、泉野浩生、山野修平、世羅至子、花田浩和、藤田文彦、安武亨、永田康浩、医師になってからでは遅い!?!～卒前から始める栄養教育の取り組み～、第31回日本静脈経腸栄養学会学術集会（福岡）、2016年2月.
12. 里加代子、樋口則英、松永典子、稲岡奈津子、佐々木均、北原隆志、薬学部実務実習生へのNST教育の実施とその評価、第31回日本静脈経腸栄養学会学術集会（福岡）、2016年2月.
13. 松永典子、樋口則英、里加代子、稲岡奈津子、佐々木均、北原隆志、若手薬剤師への栄養管理に関する早期教育研修の効果、第31回日本静脈経腸栄養学会学術集会（福岡）、2016年2月.

## 2015年業績

### 【論文発表】

#### A欧文

##### (A-a) 原著論文

1. Urabe S, Isomoto H, Ishida T, Maeda K, Inamine T, Kondo S, Higuchi N, Sato K, Uehara R, Yajima H, Machida H, Chen C, Fukuda Y, Takeshima F, Nakao K, Tsukamoto K, Genetic polymorphisms of *IL-17F* and *TRAF3IP2* could be predictive factors of the long-term effect of infliximab against Crohn's disease, *BioMed Research International*, 2015, doi: 10.1155/2015/416838, 2015.
2. Muro T, Higuchi N, Imamura M, Nakagawa H, Honda M, Nakao K, Izumikawa K, Sasaki H, Kitahara T, Postoperative infection of endoscopic submucosal dissection of early colorectal neoplasms: a case controlled-study using a Japanese database, *J Clin Pharm Ther.*, 40(5), 573–577, 2015.

3. Kurosaki T, Nakasone C, Kodama Y, Egashira K, Harasawa H, Muro T, Nakagawa H, Kitahara T, Higuchi N, Nakamura T, Sasaki H, Splenic Gene Delivery System Using Self-assembling Nano-complex with Phosphatidylserine Analog, *Biol Pharm Bull.*, 38(1), 23-29, 2015.
4. Kodama Y, Yatsugi Y, Kitahara T, Kurosaki T, Egashira K, Nakashima M, Nakagawa H, Muro T, Higuchi N, Nakamura T, Sasaki H, Quaternary complexes modified from pDNA and poly-L-lysine complexes to enhance pH-buffering effect and suppress cytotoxicity, *J Pharm Sci.*, 104(4), 1470-1477, 2015.
5. Kodama Y, Ohkubo C, Kurosaki T, Egashira K, Sato K, Fumoto S, Nishida K, Higuchi N, Kitahara T, Nakamura T, Sasaki H., Secure and effective gene delivery system of plasmid DNA coated by polynucleotide, *J Drug Target.*, 23(1), 43-51, 2015.

## B邦文

### (B-a) 原著論文

1. 馬場安里、中川博雄、室高広、樋口則英、中村忠博、佐々木均、北原隆志、N-methyltetrazoethiol基を有するセフェム系抗菌薬がワルファリンの抗凝固能に及ぼす影響、九州薬学会会報、69, 7-10, 2015.
2. 樋口則英、坂元利彰、橋詰淳哉、佐藤加代子、嶺豊春、安藝敬生、川鍋早紀、中村忠博、佐々木均、北原隆志、病棟専任薬剤師による腎機能低下患者への医薬品適正使用推進の状況調査、日本病院薬剤師会雑誌、51(10)、1255-1258、2015.
3. 佐藤加代子、樋口則英、有吉貴美代、伊藤直子、橋詰淳哉、嶺豊春、中村忠博、佐々木均、北原隆志、薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習修了後の実施状況とその評価、日本病院薬剤師会雑誌、51(1)、49-53、2015.
4. 神田紘介、室高広、城正士、山下祐未、一瀬菜摘、高比良理愛、樋口則英、北原隆志、佐々木均、中村忠博、治験薬温度管理における温度一元管理システムの導入とその効果、日本病院薬剤師会雑誌、51(1)、29-33、2015.

### 【学会発表】

## B国内学会

### (B-a) 招待講演、特別講演、受賞講演

1. 樋口則英、明日から実践！静脈栄養の処方設計について（教育セミナー）、第7回日本静脈経腸栄養学会九州支部学術集会（福岡）、2015年10月.
2. 樋口則英、松永典子、佐藤加代子、稲岡奈津子、北原隆志、佐々木均、静脈経腸栄養療法に活かす！薬剤師のフィジカルアセスメント教育と実践、薬剤師部会企画セッション『NST薬剤師におけるフィジカルアセスメントを考える』（招待講演）、第30回日本静脈経腸栄養学会学術集会（兵庫）、2015年2月.

3. 泉野浩生、山野修平、相良郁子、松永典子、樋口則英、花田浩和、藤田文彦、シンポジウム17『病態と電解質異常』 Refeeding症候群における電解質異常（招待講演）、第18回日本病態栄養学会年次学術集会（京都）、2015年1月.

(B-b) 一般演題

1. 廣兼 誠、佐道紳一、木下真理子、森 善洋、吉岡大樹、当院におけるエドキサバンの使用実態調査、第25回日本医療薬学会年会（神奈川）、2015年11月.
2. 木下真理子、吉岡大樹、廣兼 誠、森 善洋、古殿真之介、急性心筋梗塞後に発症した薬剤性横紋筋融解症の1例、第25回日本医療薬学会年会（神奈川）、2015年11月.
3. 森 善洋、吉岡大樹、廣兼 誠、木下真理子、小坂幹子、峯 孝志、外来がん化学療法患者への薬剤師の介入ーがん患者指導管理料3の算定ー、第25回日本医療薬学会年会（神奈川）、2015年11月.
4. 黒崎友亮、中川博雄、内田隆寛、樋口則英、中村忠弘、佐々木均、北原隆志、GLP-1作動薬の消化器症状の発現頻度と患者リスク因子に関する検討、第25回日本医療薬学会年会（神奈川）、2015年11月.
5. 橋詰淳哉、里加代子、内田隆寛、赤松隼人、佐々木均、樋口則英、副作用回避を目的とした病棟薬剤師による薬学的介入の実態調査、第25回日本医療薬学会年会（神奈川）、2015年11月.
6. 天本翔子、橋詰淳哉、岸川礼子、安藝敬生、室高広、佐々木均、樋口則英、薬剤師業務の定期研修体制の構築ー休日日勤・夜勤業務のためー、第48回日本薬剤師会学術大会（鹿児島）、2015年11月.
7. 吉岡大樹、森 善洋、小坂幹子、竹本智子、川島めぐみ、石谷さとみ、岩永由紀子、峯 孝志、経口抗がん剤による悪心等に対するチーム医療の導入～薬剤師の取り組み～、第53回日本癌治療学会学術集会（京都）、2015年10月.
8. 佐道紳一、澤井豊光、須山尚史、当院におけるSSI発生のリスク因子の探索と用量反応曲線を用いた予測、第63回日本化学療法学会西日本支部総会（奈良）、2015年10月.
9. 藤田有紀子、佐道紳一、増山純二、黒坂升一、嵩下英次郎、地域連携を目指したNOAC 適正使用への取り組み、第23回長崎県救急医学会（長崎）、2015年9月.
10. 小坂幹子、吉岡大樹、森 善洋、竹本智子、坂瀬彩加、釜崎篤子、宮川江利、猪野恵美、岩永由紀子、峯 孝志、経口抗がん剤による悪心等に対するチーム医療の導入、第13回日本臨床腫瘍学会学術集会（北海道）、2015年7月.
11. 森 善洋、峯 孝志、竹本智子、田平聡子、宮川江利、ド・ケルコフ チャールズ、小坂幹子、吉岡大樹、チームレゴラフェニブ 適正使用を目指した体制の構築～チーム医療の

推進～、第13回日本臨床腫瘍学会学術集会（北海道）、2015年7月.

12. 大野 毅、峯 孝志、吉岡大樹、森 善洋、小坂幹子、松田一之、ドケルコフ・麻衣子、ドケルコフ・チャールズ、松尾繁年、東 尚、三島壯太、井上 諭、濱田隆志、江口 晋、乳癌nab-PTX化学療法の末梢神経障害に対する圧迫療法は皮膚微小循環の恒常性を改善する、第23回日本乳癌学会学術総会（東京）、2015年7月.
13. 福田実、本田琢也、小林和真、中富克己、中村洋一、中川博雄、樋口則英、栗原慎太郎、岡田雅彦、芦澤和人、院内化学療法レジメン整備～小児希少悪性疾患への取り組み、第13回日本臨床腫瘍学会学術集会（北海道）、2015年7月.
14. 山下祐未、安藝敬生、能勢誠一、稲岡奈津子、岸川礼子、一瀬菜摘、中村忠博、樋口則英、北原隆志、佐々木均、薬剤師新人教育におけるメンター制度へのグループ制の導入、医療薬学フォーラム2015（愛知）、2015年7月.
15. 川鍋早紀、中川博雄、樋口則英、中村忠博、佐々木均、北原隆志、ラモトリギンの使用実態と副作用発現に関する調査、医療薬学フォーラム2015（愛知）、2015年7月.
16. 神田紘介、室高広、大脇裕一、天本翔子、一瀬菜摘、城正士、中村忠博、北原隆志、佐々木均、樋口則英、体験型質疑応答実習の導入と効果—情報を聞き出す技能の向上—、第18回日本医薬品情報学会総会・学術大会（岡山）、2015年6月.
17. 藤沢章令、樋口則英、吉井孝博、北原隆志、廣瀬弥幸、特定薬剤治療管理料の算定率向上対策とその効果、第17回日本医療マネジメント学会学術総会（大阪）、2015年6月.
18. 植木菜美、川崎英二、吉岡大樹、佐道紳一、藤田有紀子、中尾朋恵、鎌田昭江、吉村敏朗、兼松隆之、がん化学療法による味覚異常が2型糖尿病発症に関与したと考えられる1例、第58回糖尿病年次学術集会（山口）、2015年5月.
19. 藤田有紀子、川崎英二、吉岡大樹、佐道紳一、藤田成裕、吉村敏朗、兼松隆之、2型糖尿病治療におけるリラグルチド投与のnonHDL-Cに及ぼす効果、第58回糖尿病年次学術集会（山口）、2015年5月.
20. 徳永彩子、兒玉幸修、樋口則英、北原隆志、佐々木均、Dendrigrift poly-L-lysineを基材とした遺伝子ベクターの有用性評価、日本薬剤学会第30年会（長崎）、2015年5月.
21. 橋詰淳哉、樋口則英、田浦直太、中尾一彦、シスプラチンによる肝動注療法施行時の制吐療法の実態調査と評価、第47回ウイルス肝炎・肝疾患治療研究会（福岡）、2015年5月.
22. 大野 毅、峯 孝志、吉岡大樹、小坂幹子、ドケルコフ麻衣子、ドケルコフチャールズ、松尾繁年、東 尚、眞田雄市、三島壯大、井上 諭、濱田隆志、森 善洋、松田一之、乳癌nab-PTX化学療法の末梢神経障害に対する加圧ストッキング・スリーブ・予防薬処方（3S）治療における治療回数と末梢神経障害グレード、皮膚血流との関連、第115回日本外科学会定期学術集会（愛知）、2015年3月.

23. 樋口則英、橋詰淳哉、佐藤加代子、岸川礼子、川鍋早紀、嶺豊春、佐々木均、ステロイド骨粗鬆症に対する予防投与の現状調査、日本薬学会第135年会（兵庫）、2015年3月.
24. 佐藤加代子、橋詰淳哉、伊藤直子、馬場安里、安藝敬生、嶺豊春、佐々木均、樋口則英、病棟専任薬剤師による注射薬投与ルート管理の実態調査、日本薬学会第135年会（兵庫）、2015年3月.
25. 藤沢章令、樋口則英、佐藤裕美、横山哲也、北原隆志、廣瀬弥幸、特定薬剤治療管理料の算定率向上対策とその効果多部門連携チームでの取り組み、平成26年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議（滋賀）、2015年2月.
26. 稲岡奈津子、樋口則英、松永典子、佐藤加代子、佐々木均、北原隆志、薬剤師のための栄養療法に関する研修会の実施とその評価、第30回日本静脈経腸栄養学会学術集会（兵庫）、2015年2月.
27. 泉野浩生、山野修平、濱口理恵子、田嶋真理子、松永典子、樋口則英、三浦伊代、花田浩和、藤田文彦、安武 亨、栄養管理に対する興味を芽生えさせる取り組み、第30回日本静脈経腸栄養学会学術集会（兵庫）、2015年2月.

## 2014年業績

### 【論文】

#### A欧文

##### A-a 学術誌に掲載された原著論文

1. TSUYOSHI OHNO, TAKASHI MINE, HIROKI YOSHIOKA, MIKIKO KOSAKA, SADAYUKI MATSUDA, MAIKO DE KERCKHOVE, CHARLES DE KERCKHOVE, JUNJI IRIE, KEIJI INOUE, MASASHI HARAGUCHI, MASACHIKA KITAJIMA, ITO SHINICHIRO, HIROTAKA TOKAI, TAKAYUKI TANAKA and RYOKO IZUMIDA: Management of Peripheral Neuropathy Induced by Nab-Paclitaxel Treatment for Breast Cancer. *Anticancer Research*34 (8): 4213-4216, 2014

##### A-b 学術誌に掲載された総説

なし

##### B邦文B-a 学術誌に掲載された原著論文

なし

##### B-b 学術誌に掲載された総説

なし

### 【学会発表】

1. 大野毅, 井上啓爾, 原口正史, 北島正親, 伊藤信一郎, 渡海大隆, 田中貴之, ドケル

- コフ麻衣子, 吉岡大樹, 小坂幹子, 松田一之, 峯孝志: 乳癌nab-PTX療法の末梢神経障害に対する加圧ストッキング・スリーブ・予防薬セット処方 (3S) の臨床効果と皮膚血流との関連, 第114回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2014. 4
2. Tsuyoshi Ohno, Hiroki Yoshioka, Mikiko Kosaka, Sadayuki Matsuda, Takashi Mine, Maiko de Kerckhove, Charles de Kerckhove, Junji Irie, Keiji Inoue, Masashi Haraguchi, Masachika Kitajima, Shinichiro Ito, Hirotaka Tokai, Takayuki Tanaka: Decreased skin perfusion due to chemotherapy-induced peripheral neuropathy in breast cancer patients, and improvement by wearing stockings, The 50th ASCO Annual Meeting, Chicago, 2014. 5
  3. 森善洋, 竹本智子, 田平聡子, 宮川江利, 小坂幹子, 吉岡大樹, 吉村敏朗, 峯孝志: Management of medical team for regorafenib therapy at Nagasaki Harbor Medical Center/レゴラフェニブ導入のためのチーム医療の取り組み, 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡, 2014. 7
  4. 大野毅, 峯孝志, 吉岡大樹, 森善洋, 小坂幹子, 松田一之, ドケルコフ麻衣子, 井上啓爾, 原口正史, 北島正親, 伊藤信一郎, 渡海大隆, 田中貴之: 化学療法の末梢神経障害に対する加圧ストッキングの効果と皮膚血流との関連, 第52回日本癌治療学会学術集会, 神奈川, 2014. 8
  5. 木下真理子, 吉岡大樹, 広兼誠, 森善洋, 藤田有紀子, 佐道紳一, 吉村敏朗: ドネペジル塩酸塩による徐脈性不整脈が疑われた3例, 第24回日本医療薬学会年会, 愛知, 2014. 9
  6. 藤田有紀子, 吉岡大樹, 佐道紳一, 木下真理子, 森善洋, 川崎英二, 森内昭江, 吉村敏朗: リラグルチドの投与が脂質代謝に及ぼす影響と患者背景因子の検討, 第24回日本医療薬学会年会, 愛知, 2014. 9
  7. 佐道紳一, 植木菜美, 鶴田孝義, 藤田有紀子, 森善洋, 木下真理子, 吉岡大樹, 吉村敏朗, 松尾信子, 塚元和弘: 前立腺癌に対するドセタキセル療法後のG-CSF投与により間質性肺炎をきたしたと考えられた1例, 第24回日本医療薬学会年会, 愛知, 2014. 9
  8. 吉岡大樹, 森善洋, 木下真理子, 藤田有紀子, 佐道紳一, 小坂幹子, 大野毅, 吉村敏朗: 予防薬セット処方と加圧ストッキング・スリーブ (3S) による乳癌nab-PTXの末梢神経障害対策, 第24回日本医療薬学会年会, 愛知, 2014. 9
  9. 森善洋, 吉岡大樹, 藤田有紀子, 木下真理子, 佐道紳一, 岩永哲, 吉村敏朗: 頭頸部癌に対するセツキシマブ治療への薬剤師の関与, 第24回日本医療薬学会年会, 愛知, 2014. 9
  10. Tsuyoshi Ohno, Takashi Mine, Hiroki Yoshioka, Mikiko Kosaka, Sadayuki Matsuda, Maiko de Kerckhove, Charles de Kerckhove, Keiji Inoue, Masashi Haraguchi, Masachika Kitajima, Shinichiro Ito, Hirotaka Tokai, Takayuki Tanaka, Junji Irie: The relationship between the grade of peripheral neuropathy and the skin blood perfusion in chemotherapy-induced peripheral neuropathy patients, and the effects of

compression therapy, The 39th ESMO Congress, Spain, 2014. 9

11. 尾関あゆみ, 南和徳, 内田新, 井上啓爾, 吉岡大樹, 吉村敏朗: オキシコドン塩酸塩水和物徐放錠からメサドン塩酸塩錠への切替えにより良好な疼痛コントロールが得られた1症例, 第8回日本緩和医療薬学会年会, 愛媛, 2014. 10
12. 藤田有紀子, 川崎英二, 吉岡大樹, 佐道紳一, 藤田成裕, 吉村敏朗, 兼松隆之: 2型糖尿病患者におけるリラグルチド投与がnonHDL-Cに及ぼす影響, 第52回日本糖尿病学会九州地方会, 熊本, 2014. 10
13. 植木菜美, 川崎英二, 吉岡大樹, 藤田有紀子, 藤田拓郎, 松永朋恵, 森内昭江, 吉村敏朗, 兼松隆之: がん化学療法による味覚障害が2型糖尿病発症に関与したと考えられる1例, 第52回日本糖尿病学会九州地方会, 熊本, 2014. 10

## 2013年業績

### 【論文】

#### A欧文

A-a 学術誌に掲載された原著論文

なし

A-b 学術誌に掲載された総説

なし

#### B邦文

B-a 学術誌に掲載された原著論文

1. 森善洋, 吉岡大樹, 木下真理子, 尾関あゆみ, 鶴田孝義, 藤田有紀子, 山下真由美, 佐道紳一, 小坂幹子, 小寺宏平, 嵩下浩子: ホスアプレピタントメグルミン投与による注射部位反応の軽減. 日本病院薬剤師会雑誌49 (9): 993-997, 2013

B-b 学術誌に掲載された総説

1. 佐道紳一, 武藤成紀: 【入院/外来薬物治療プラクティス】薬物治療管理の実践循環器疾患不整脈. 薬局64(4):712-724, 2013
2. 尾関あゆみ, 内田新, 富安志郎: 痛みを治療するCase16 緩和ケアチームの介入により携帯型精密輸液ポンプを用いたモルヒネ持続静脈投与を行い, 痛みも呼吸困難も改善された終末期肺がん患者. がんの痛みをとる! 11(3): 6-7, 2013
3. 佐道紳一, 鶴田孝義: 専門薬剤師の薬学的ケア感染制御乾癬患者において抗TNF $\alpha$ 製剤投与中にtoxic shock syndromeが疑われた一症例. 薬事55(6):1065, 2013
4. 佐道紳一, 鶴田孝義: 処方の教室抗血栓療法Key Word. Rp. レシピ12(4):305-307, 2013
5. 佐道紳一, 吉岡大樹, 内田雄三: 処方の教室抗血栓療法医薬品の適正使用抗凝固薬. Rp. レシピ12(4): 340-347, 2013



6. 町田聖治, 佐道紳一, 鶴田孝義, 入江利行, 吉岡大樹, 内田雄三, 河野健太郎, 澤田康文, 折井孝男, 山口路子: 処方教室抗血栓療法. Rp. レシピ別冊12(4): 302-307, 340-347, 2013

#### 【学会発表】

1. 森英恵, 鶴田孝義, 木下和久, 森裕美: 「みえる化」で取り組んだ手洗い遵守率フィードバック, 第28回日本環境感染学会総会, 神奈川, 2013. 3
2. 内田新, 尾関あゆみ, 富安志郎: レスキュードーズ1回分の患者自己管理システム運用開始1年間の評価と今後の課題, 第18回日本緩和医療学会学術大会, 神奈川, 2013. 6
3. 尾関あゆみ, 内田新, 富安志郎, 吉村敏朗: 長崎市立市民病院緩和ケアチームの薬薬連携における薬剤師の役割, 第21回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 長崎, 長崎, 2013. 7
4. 尾関あゆみ, 富安志郎, 内田新, 吉岡大樹, 吉村敏朗: 長崎市立市民病院におけるオピオイド注射剤の使用実態調査, 第7回日本緩和医療薬学会年会, 千葉, 2013. 9
5. 藤田有紀子, 吉岡大樹, 佐道紳一, 鶴田孝義, 溝上明成, 吉村敏朗: スルファメトキサゾール・トリメトプリム(ST合剤)アレルギーに対して脱感作療法をおこなった全身性エリテマトーデスの1例, 第23回日本医療薬学会年会, 宮城, 2013. 9
6. 吉岡大樹, 森善洋, 木下真理子, 尾関あゆみ, 鶴田孝義, 藤田有紀子, 山下真由美, 佐道紳一, 小坂幹子, 小寺宏平, 吉村敏朗: ホスアプレピタント投与による注射部位反応の軽減, 第23回日本医療薬学会年会, 宮城, 2013. 9
7. 佐道紳一, 鶴田孝義, 藤田有紀子, 木下真理子, 吉岡大樹, 吉村敏朗, 塚元和弘: 抗TNF $\alpha$ 製剤投与期間中にToxic shock syndromeが疑われた乾癬患者の一例, 第23回日本医療薬学会年会, 宮城, 2013. 9
8. 吉岡大樹, 森善洋, 小坂幹子, 大野毅, 吉村敏朗: 予防薬set処方と加圧stocking・sleeve (3S) による乳癌nab-PTXの末梢神経障害対策, 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013. 10
9. 大野毅, 井上啓爾, 原口正史, 北島正親, 伊藤信一郎, 渡海大隆, 田中貴之, 福田俊夫, 入江準二, 吉岡大樹, 小坂幹子: 乳癌に対するアルブミン結合パクリタキセルの術前使用例の検討, 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013. 10
10. 小坂幹子, 竹本智子, 田上八重子, 吉岡大樹, 森善洋, 小寺宏平: ホスアプレピタント投与による注射部位反応の軽減, 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013. 10
11. 山下真由美, 吉岡大樹, 藤田有紀子, 鶴田孝義, 佐道紳一, 吉村敏朗: エキセナチドによる悪心・嘔吐発現の実態調査, 第2回日本くすりと糖尿病学会学術集会, 東京, 2013. 11
12. 藤田有紀子, 吉岡大樹, 佐道紳一, 鶴田孝義, 山下真由美, 森内昭江, 吉村敏朗: アログリプチンの投与がnon-HDL-Cに及ぼす影響と患者背景因子の検討, 第51回日本糖尿病

学会九州地方会，沖繩，2013.11

13. 木下真理子，吉岡大樹，安永和恵，吉村敏朗，橋口順康：転倒・転落事例に及ぼす睡眠薬・抗不安薬の作用時間の影響，第8回医療の質・安全学会学術集会，東京，2013.11
14. Tsuyoshi Ohno, Keiji Inoue, Masashi Haraguchi, Takashi Mine, Hiroki Yoshioka, Kazuyuki Matsuda, Mikiko Kosaka, Michi Morita, Maiko de Kerckhove, Masachika Kitajima, Shinichiro Ito, Hirotaka Tokai, Takayuki Tanaka: MANAGEMENT OF PERIPHERAL NEUROPATHY INDUCED BY NAB-PTX THERAPY FOR BREAST CANCER, ADVANCED BREAST CANCER SECOND INTERNATIONAL CONSENSUS CONFERENCE(ABC2), Portugal, 2013.11